

乙 頁

第39号 通巻第8巻第4号

1988年7月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター

TEL 0775-85-4397

〒524-02

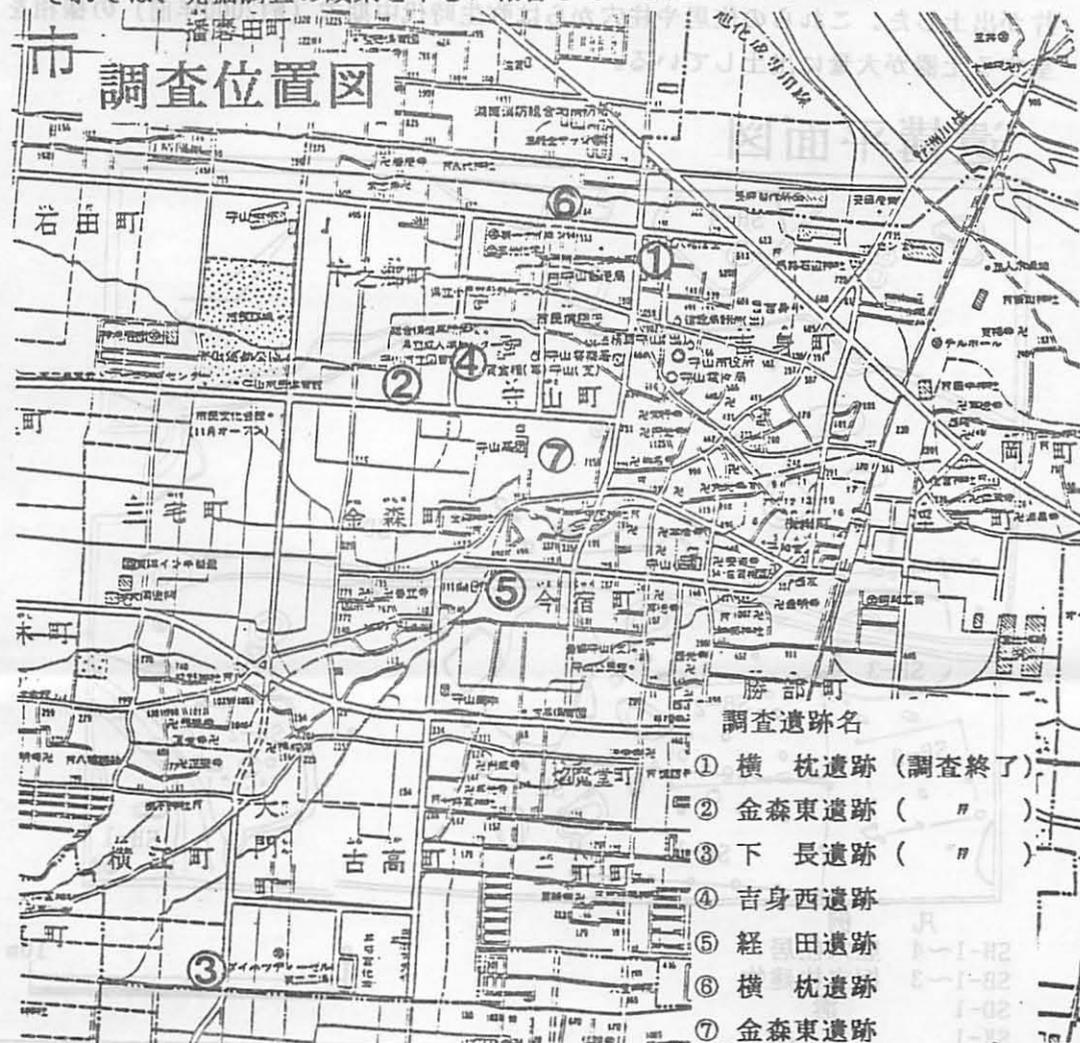
守山市服部町2250番地

はじめに

前号の「乙頁」発行の頃は、2遺跡の発掘調査が行なわれていたのですが、今ではその2件を含む3件を終了し、現在4遺跡で発掘調査を実施しています。

夏の発掘調査現場では、黒々とあらわれた粘土さえも熱線によって水気は奪われ、たちまち白い土塊と化してしまいます。このような照り返しのつよい地面を掘削している毎日です。

それでは、発掘調査の成果を中心に報告していきたいとおもいます。

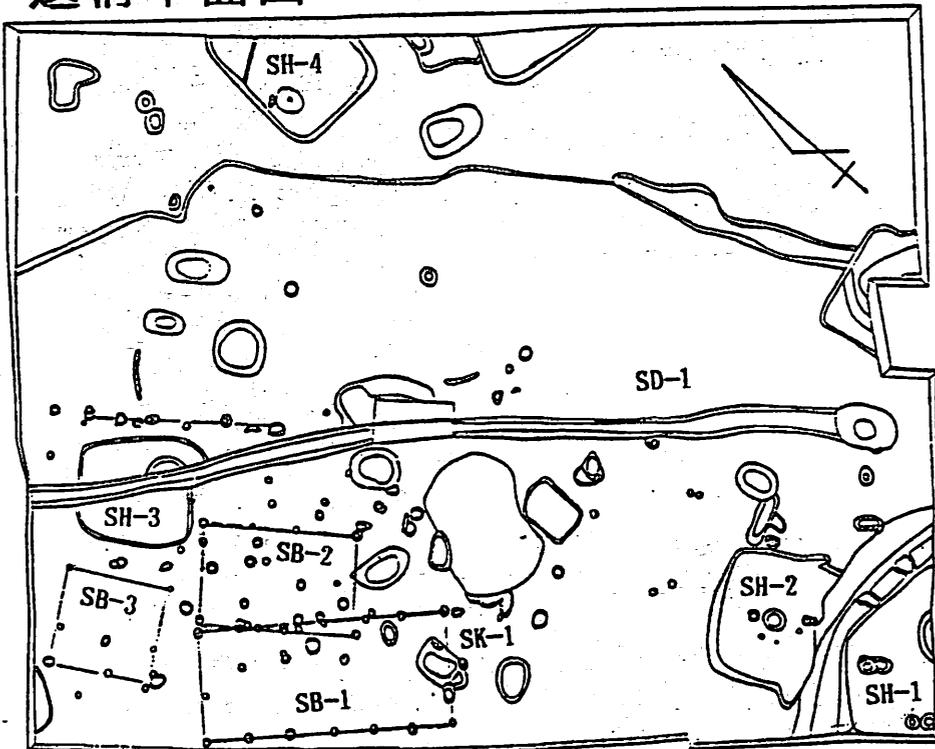


横枕遺跡の発掘調査

守山町元町の交差点東南側で4月19日から5月31日まで1ヶ月余の期間をかけて横枕遺跡の発掘調査を行った。その結果、弥生時代の中期末の遺構や遺物がみつき、この地域の遺跡の広がり徐々に明らかになってきた。まず、横枕遺跡とその隣に位置する二ノ畦遺跡の間には谷状の落込みがあり、その両側（東側二ノ畦、西側横枕）の微高地上にそれぞれ遺跡が営まれていたことがわかった。今回の調査では、図のとおり円形の竪穴住居が1棟（SH-1）、方形の竪穴住居が3棟（SH-2～4）みつけた。SH-1と2は切合い関係があり、2の住居の方が1の住居よりも古い。方形住居の柱穴位置はまったく不明である。SH-3はSD-1に切られていて、住居が溝に先行して営まれていたことがわかった。SD-1は掘立柱建物（SB-1、2、3）に平行しており、掘立柱建物を区画する役割を果たしていたのであろう。

掘立柱建物に隣接して土坑（SK-1）が検出され、そこから鉄器（鉄鏃）の残片が出土した。これらの住居や柱穴からは弥生時代中期末（約2000年前）の様相を呈する土器が大量に出土している。

遺構平面図



- 凡 例
- SH-1～4 竪穴住居
 - SB-1～3 掘立柱建物
 - SD-1 溝
 - SK-1 土坑



金森東遺跡の発掘調査

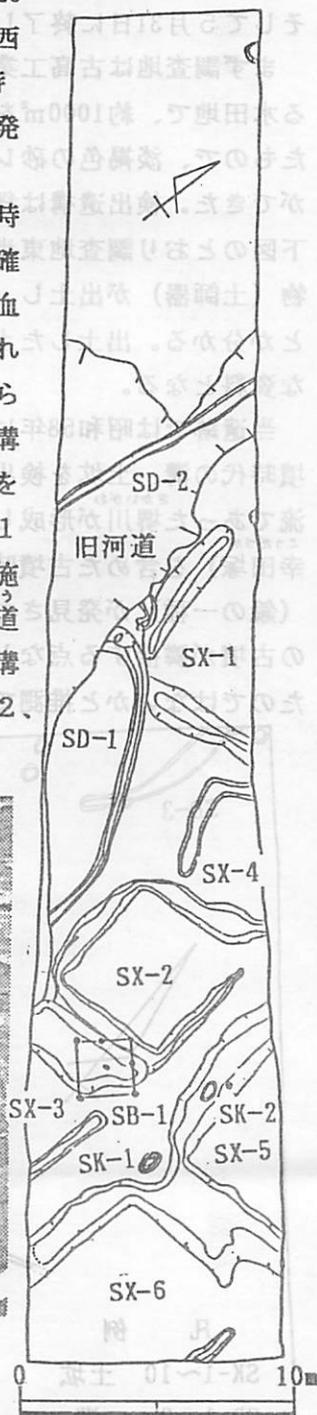
今回の調査は資材置場建設に伴い約1800㎡を対象に4月20日から6月2日まで実施した。調査地は守山市立図書館の西方約150mの地点に位置し、昭和58年～59年の調査で弥生時代中・後期の方形周溝墓や古墳時代後期の古墳が都合37基発見された場所に隣接している。

調査の結果、弥生時代中・後期の方形周溝墓6基と平安時代の溝2条が検出され、遺跡がさらに北側に広がることが確認された。方形周溝墓は南北方向に2列並んで検出され、血縁関係の深い人々のグループの存在が2つあったと考えられる。西側のグループは1号墓→2号墓→3号墓の順につくられていて、北側から順に築かれていったと考えられる。周溝墓の規模は大きいもので一辺12m、小さいもので一辺8mを測る。溝は2、3、6号墓は北東隅が途切れている。また1号墓は四隅とも途切れていて、やや古い形態を示す。埋葬施設は後世の削平のためほとんど存在しないが、わずかに墓道と考えられる空白地に1基（SK-1）と5号墓の西側周溝内に1基（SK-2）確認された。遺物は弥生土器が1、2、3、6号墓の周溝内から出土している。



第2号墓（SX-2）

今回の調査で唯一全形のうかがえる方形周溝墓である。大きさは一辺8.6m、溝幅は狭いところで0.6m、広いところで2.7m、深さは浅いところで40cm、深いところで60cmを測る。溝が四周する様子がよくわかる。



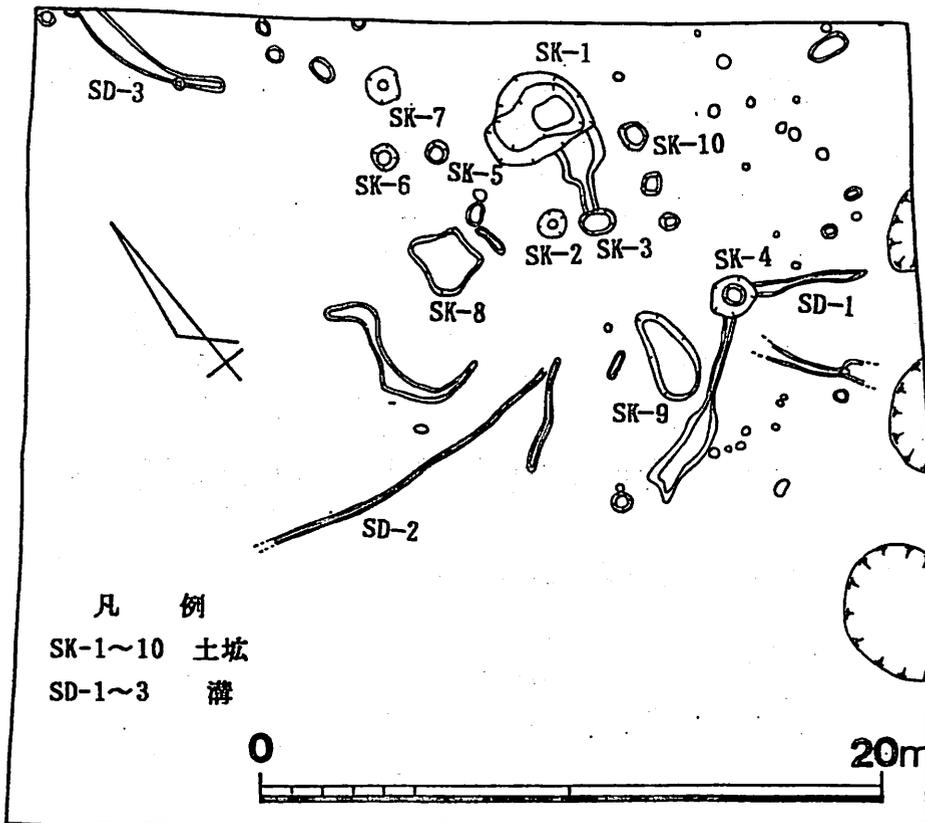
凡	例
SX-1～6	方形周溝墓
SK-1・2	埋葬施設
SD-1・2	溝
SB-1	建物

しもながいせき
下長遺跡の発掘調査

前号の「乙貞」でも紹介したとおり、下長遺跡の発掘調査は5月中旬より着手し
そして5月31日に終了した。調査の概要を報告したい。

まず調査地は古高工業団地ダイハツディーゼル株式会社工場地の北西方に隣接す
る水田地で、約1000㎡を発掘調査した。遺構は耕作土層直下(約30cm)より検出し
たもので、淡褐色の砂レキ土の地山、黒褐色の埋土で、比較的明瞭に見つけること
ができた。検出遺構は径1m~4mを測る円形や不定形の土坑、ピット、小溝で、
下図のとおり調査地東半に集中する。そしてこの遺構群、主に土坑からは多数の遺
物(土師器)が出土し、古墳時代前期~中期(1700年~1500年前)の時期であるこ
とが分かる。出土した土器はその形を完全に残すカメ、壺、高坏、鉢があり、貴重
な資料となる。

当遺跡では昭和58年に当地より北東方約300mの地点で調査を実施し、同じく古
墳時代の溝、土坑を検出している。砂レキ土の地山は、おそらくかつての野洲川主
流であった堺川が形成した微高地の名残り^{さかいがわ}で、この地形に古高古墳群(松塚^{まつづか}、狐塚^{きつねづか}、
幸田塚^{こうだづか})を含めた古墳時代の遺構が存在するようである。前回調査では素文鏡2点^{すもんきょう}
(鏡の一種)が発見されていて、今回の調査を含め明瞭な住居跡がないことや3基
の古墳が隣接する点などから、集落の場ではなく「祭祀」の場として利用されてい
たのではないかと推測できる。



現在実施中の発掘調査

現在調査は、調査位置図に示す④～⑦の4地点で実施している。いずれもその成果を、ここで報告することはできないが、中間報告を記したい。

④吉身西遺跡よしみにしいせきの調査 市立図書館増設に先立って、5月23日より開始した。調査対象地に5区の調査区を設定し、現在最初の調査区を調査中である。検出した溝、土坑から古墳時代の遺物が出土している。

⑤経田遺跡きょうでんいせきの調査 川向団地の南側の水田地を、宅地造成工事に先立ち、6月1日より調査している。約2200㎡を9月中頃までの予定で進めているが、調査地北半分からは弥生時代後期～古墳時代後期にかけての竪穴住居、掘立柱建物、溝がみつまっている。

⑥横枕遺跡の調査 守山町元町で個人住宅建設に伴って、6月10日から発掘調査している。現在、円形の竪穴住居、土坑を検出し、これらの遺構からは弥生土器（中期終わり頃）が多数出土している。

⑦金森東遺跡の調査 守山高校に南接する宅地造成地の一面を、6月23日より調査している。この宅造地の大半は昭和59～60年にかけて調査が行なわれ、45棟の竪穴住居と12棟の掘立柱建物などがみつき、弥生時代後期から古墳時代後期にかけて集落が営まれていたことがわかっている。調査当時畑地として耕作されていた当地に個人住宅が建設されるために今回の調査となった。

（以上4遺跡の発掘調査の結果は、「乙貞」9月号で報告いたします。また、お気軽に発掘調査現場をご見学下さい。）



埋蔵文化財（埋文）についての身近な話題をお伝えするコーナーとして、「埋文トピックス」を設けました。では、日本列島発掘展の話題からお伝えしましょう。

☆日本列島発掘展に市内出土品（琴・矢形・土器）を出品

古代の美とロマンをもとめて「日本列島発掘展」が、今年8月から全国各地を巡回して開かれます。この発掘展には守山市の服部遺跡はっとりいせきから出土した「琴」と「木製矢形」きぎた（以上、古墳時代）、下新川神社所有の「人面墨書土器」じんめんぼくしょ（奈良時代）を出品し、展示されることになりました。地元出土品をこの機会にご覧ください。

いま、全国各地で行なわれている遺跡発掘調査によって、貴重な文化財が出土しています。この出土品の中から、「原始・古代」を中心に、木製品や土器、石器、埴輪はにわ、銅鐸どうたく、耳飾、指輪、ペンダント、勾玉、腰飾りなど、古代人の生活のようすを現代に伝える数多くの考古学資料が今回の展示会で展示され、古代の美とロマンの世界を身近に感じることができるよう工夫されています。なお展示会は、朝日新聞社と全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会、全国埋蔵文化財法人連絡協議会の

主権により開かれ、近畿管内での日程は、次のとおりです。 ◇8月3日(水)～15日(月)梅田大丸ミュージアム(大阪) ◇9月15日(木)～20日(火)京都大丸百貨店※ ◇9月23日(金)～10月5日(水)橿原近鉄百貨店(奈良)※ ※は滋賀コーナー設置予定。

☆郷土の学習にと、埋文センター見学

市立埋蔵文化財センターでは、市内から出土した埋蔵文化財の整理作業(出土遺物の修復と図化、報告資料作成など)と展示・保管をおこなっています。市民の皆さんに郷土学習の一環として、埋蔵文化財展示品と施設の見学を受入れています。埋文センター見学は、午前9時～午後4時。休館日は毎週火曜日と年末年始・特別展開催に伴う準備の日。ただし、団体で見学希望の時は、日時と人数を埋文センターへ予め連絡してください。

☆小学生が親子で楽しく土器づくり

野洲川の粘土で土器をつくって、古代の人々の暮らしを学び、これからの活動に生かそうと、5月14日(土)に市立中洲小学校の3年生と4年生計79人の子どもたちが保護者とともに、服部遺跡のある服部大橋付近の空地において、土器づくりをおこないました。この行事は、同校のひびきあい活動の一環として取組まれているもので、当日、現地において、埋文センター職員から「古代の人々の生活と土器の作り方」の説明を聴いたあと、いくつかのグループに分かれて、粘土をこねて、土器づくりをおこなったものです。できあがった作品は、乾燥のあと、「野焼き」という方法で焼き上げました。

中洲小学校のご好意により、参加した児童の感想文をいただきましたので、その中から、いくつかを紹介いたします。

(3年児童の声) [以下原文のまま]

○野す川へつきました。大きな広場のような場しよでした。ぶんかざいセンターの人の話を聞いている時、早く土きを作りたいという気持ちで、まちきれなかったけど、「土きをやくには、そうとう高いおんどで1日中やいていると、やきものができるのは、たいへんだらうな。」と思いました。

まちきれなかった土き作りがはじまりました。わたしは、「さあ、作ろう。」と心からじゅんぴをしました。作りはじめはかんたんだったけど、と中からひびがたくさん入ってきて、なおすのがたいへんでした。「またひびが入ってきたよお。」と、わたしは、ゆりちゃんに話しかけました。ひびがたくさん入ったので、水で直しすぎたので、からからのタオルをかけて、水を少しすいとらせました。そしてやっとできあがりました。

「やった。やっとできた。あとは、1ヶ月後に、やくだけ。2ヶ月たったら、やきものは、とっくにできる。それまでまとう。」と、心の中で思いました。

(R. K.)

○野す川へいどうして、まいぞう文化ざいセンターの人の話を聞いて、春か秋か

どっちがつくりやすいときかは、秋だったので、わたしが生まれたときでよかったですと思いました。

さっそくとりかかってどんな形にしようか、たいへんまよいました。そこで1人1人見学してだいたいどんなものをつくるのかわかりました。できました。「やっぱりわたしのもすてたもんじゃない。」と、1人ごとをいいました。

早くやきたいと思いました。(A. K.)

〇まいぞう文化ざいセンターの人の話を聞いて、むかしのことがよくわかりました。たとえば、土きに女の人のつめのあとがついてあるので女の人がよく作ったことを聞きました。

作りはじめはねん土を2つにわって作りました。ひろがってきたらつぶしてなんとか作っていけました。あと20分といわれたので作ったので、ひろがってきて、またつぶして、ぎりぎりできました。

楽しい中学年集会でした。(T. T.)

(4年児童の声)

〇1番むずかしかったのは、形です。形がくずれるからです。する前はんかんたんと思っていたけど、やってみるとむずかしかったです。いっぱい水をつけると、ねん土がやわらかくなるから、あまり水をつけない方がいいと思います。

かん成したのを見て、思いました。まあまあとお母さんはいいました。だけど、自分はうまいと思いました。(T. M.)

〇文化財センターのおじさんが話を少しの間してくださいました。そして、話が終わるとすぐにつくりはじめました。文化財センターのおじさんが持ってきてくれた土きにまけないようにがんばってつくろうと思いました。

でも、つくるとむずかしそうでした。つくるのにも時間がかかりました。わたしとお父さんはつぼを作りました。お父さんがつぼを作ってくれて、わたしはつぼのふたを作りました。つぼのふたも、板にひっついて、なかなか作れませんでした。

でも、やっと作れた時、お父さんが、野す川へおりていって、タオルをぬらしてきてくれて、作品の上にかけてくれました。わたしは、うまくできるといいなど、思っていました。とても楽しかったひびきあい集会でした。(Y. K.)

〇今日のひびきあい集会で、ぼくは「むかしの人々はよくこんなむずかしい物を何こも作れたなあ。」と思いました。ぼくらは今日1こ作ってもくたびれてしまいました。

やり方は、まいぞう文化財センターの人たちに聞きました。しかし、なかなかむずかしかったです。形は、文化財センターに2回行ったことがあり、だいたいどんな形にしたらよいかわかっていました。それで、何とかつくりことができました。このつくったつぼが、じょうずにやけるといいなと思います。やけたつぼが楽しみです。

また今度は、もっともっとじょうずな物を作りたいです。(K. N.)

— 埋文センターからのお知らせ —

春季特別展について

去る4月29日から5月8日までの期間で開催した春季特別展には多数の見学者があり、多くの方が郷土の歴史に興味をもっていることを再認識した次第です。

今回、来館者を対象に、特別展に関するアンケート調査を実施したところ、初めての来館者が大変多かったことが分かり、①展示品に関して、より詳細な説明を望んでいる。②来館者が参加できる「体験学習」の機会を増してほしい。③開催事業などの情報を得やすいように、広報の充実を図ってほしい。などの要望がありました。これらの意見は、今後の特別展の開催に生かしていきたいと考えています。

アンケート調査に協力していただいた皆様、有難うございました。

夏季特別展開催について

埋蔵文化財センターでは夏季特別展を下記のとおり開催いたします。弥生時代は日本で農業が行なわれ始めた最初の時代です。その頃の人々は、どのような住居に住み、どのような道具を使って生活していたのでしょうか。発掘調査によって検出された住居や、出土した道具から、当時の生き生きとした生活ぶりが浮かび上がってきます。今回は、日本で稲作が始まった頃、弥生時代の住居や道具、水田や墓などから、その当時のくらしぶりについて復元してみたいと思います。

夏のひととき、どうぞ特別展で、古代のくらしぶりを想像して下さい。

記

- | | |
|---------|-----------------------|
| 1 開催テーマ | 「稲作の始まった頃」 |
| 2 開催期間 | 昭和63年8月7日(日)～8月21日(日) |
| | 開館時間 午前9時～午後4時 |
| | 特別展開催中は休館日はありません。入館無料 |
| 3 開催行事 | 講演会 8月21日 午後1時～3時 |
| | 演 題 『湖北の弥生時代』 |
| | 講 師 宮成良佐氏 (長浜市教育委員会) |

後 記

7月1日号は、8ページとふだんにくらべボリュームアップしました。中洲小学校3・4年生が行った「土器づくり」の感想文を掲載したためです。これまで「乙貞」は市内の発掘調査の状況を迅速に伝える役割を担ってきましたが、今後それに加えて埋蔵文化財に関するいろいろな記事の掲載で紙面を彩っていくことになりました。その他発掘調査報告については、読みやすくするため文体を変えるなど、隔月発行のわずか数ページの「乙貞」ですが、絶えずその点検を図っています。センターや「乙貞」にお気付きの点があれば、御意見をお寄せください。